

大いなる転換の年へ

今年は、世界も日本も「大いなる転換の年」になりそうである。「アメリカ時代の終わり」と「アジアの世紀の始まり」が、より鮮明な姿を現してくるだろう。昨年11月のオーストラリア総選挙の結果は、それを示す先ぶれといえるかもしれない。

大転換の先ぶれとしての豪州選挙結果

この選挙で「アジアにおけるアメリカの代理人」を自任し、イラク派兵をはじめ、事々にブッシュに追随してきたハワード政権が大敗し、11年間続いた保守連合政権が崩壊した。ニューヨークタイムスは「ブッシュ大統領のアジアでの最も強固な支持者の1人が完全な敗北を喫した」（11.26）と報じたが、これでブッシュの最も熱心な追随者であったイタリア・ベルルスコーニ、イギリス・ブレア、日本・小泉、オーストラリア・ハワードの「ブッシュの盟友」たちがすべて政権の座から去った。ハワード首相は議席も失うという屈辱をなめた。ブッシュ時代も今年かぎりとなった。

ハワードを大敗させた労働党ラッド党首は、イラク戦争を「誤った戦争」と断じ、対米追従からの脱却、中国を中心とするアジア重視外交への転換、イラクからの戦闘部隊の撤兵、京都議定書の批准促進など、ハワード政権の内外政策の大幅転換を主張している。有権者の70%近くがイラク戦争に反対しているが、その有権者の圧倒的支持を獲得して、過半数を大幅に上回る議席を得た。

ブッシュ大統領はラッド党首に電話で祝意を伝え、「関係強化のために協力できる機会を待ち望む」と同盟維持を訴えたが、ラッド党首は同盟は継続するものの、対米追従は是正するとの方針を変えることはなかった。今度の選挙結果は、アジア・太平洋地域におけるアメリカの威信低下につながり、米豪関係のみならず、日豪関係、にも影響を与えるだろう。日米豪印の安保同盟結成によって対中国牽制を強めようとしていた小泉・安倍=ハワード戦略の挫折を招き、アジア・太平洋地域の政治地図に微妙な変化をもたらすからである。

アフガン、イラクでの『敗北』、ドルの下落

アフガニスタン、イラクに対するブッシュ戦略も破たんしつつある。アフガニスタンにおけるNATOを巻き込んでのテロ掃討、治安回復作戦はすでに6年に及ぶが、いぜん治安は回復せず、むしろタリバン勢力の復活を招いている。4年10ヶ月を経たイラク戦争も泥沼

状態から脱却できず、宗派对立による内戦状態も広がり、イラク市民、米兵の死傷者が連日増え続けている。イラク戦費だけでも6000億ドル(66兆円)を超え、アメリカの財政危機に拍車をかけている。アメリカ国民の6割はイラク戦争におけるアメリカの「敗北」を認めている。

また去年は、アメリカの世界覇権を支えてきた基軸通貨ドルの信用が大きく揺らいだ年であった。不動産神話を煽って低所得層に戸建ての邸宅を買わせ、金利の高いサブプライムローンを貸し付けたものの、この債権を組み込んだ金融商品が世界中にばらまかれて焦げついたため、世界中の金融機関が莫大な損失を蒙った(パーナンキFRB議長は1500億ドル、EUアナリストは4000億ドル=44兆円と推定)。国際金融市場は大混乱に陥り、ドルの信用は大きく下落し、金融支配による覇権強化の世界戦略も大きく揺らいでいる。湾岸産油国は、原油のドル決済から、ユーロを中心とした各種通貨のバスケットによる決済に切り替えようとしているし、1兆1000億ドルと世界一のドル保有国となった中国も、その一部をユーロに切り替え始めている。ドル暴落の悪夢の影が次第に色濃くなってきた。

日本も転換の年へ

日本も今年は大きな転換の年を迎える。与野党逆転となった昨年の参議院選挙にひきつづき、政権の行方をかけた総選挙がおこなわれる。昨年の選挙で、小泉・安部が進めてきたネオコン政治、新自由主義路線は、国民に拒否された。福田内閣は対米追従を変えておらず、八方手詰まりである。戦後60年、政府・自民党が金科玉条にしてきた日米同盟・日米基軸は、アメリカによってすでに米中連携・米中基軸の下位におかれている。アメリカはアジアの世紀への布石を打ってきている。「アメリカ時代の終わり」と「アジアの世紀の始まり」という世界構造の激動に対応するには、小手先の改革ではなく大胆な戦略転換が必要であり、そのためには政権交代が不可欠であることを知るべきである。

久保孝雄(くぼたかお)
参加型システム研究所理事長

参加システムNO. 54 2008. 1